

◆ 平成26年度「第3回市政モニター会議」意見・提案集約 ◆

整理番号	発言趣旨	答弁者	答弁概要	対応状況
1	総社正木山トレイルランが開催され、今年で8回目になる。毎年参加者が増えている。今年の参加者はおそらく5～600人。秦の自治会、あるいは、コミュニティーが手伝っているが、総社市としてもいい宣伝になるのではないかな。何か考えてお手伝いいただけないものか。	市長	やらないことはない。だが市役所が何もかもやりすぎている。それは地元でやってくださいと。それに協力しますということ。協力しないわけではない。地元が盛り上がるほうが力強いと思っている。	-
2	服部駅にある案内看板に韓国語、中国語、英語表記を早急に増設していただいております。(第1回市政モニター会議で提言)	-	-	-
3	確定申告に行った。過年度までの記名式から仮受付順番表になっており、待たれた人は、非常にいいことだと褒めていた。	-	-	-
4	総社市シルバー人材センターの剪定業務の申し込みについてだが、8時30分に電話すれば通話中、10時に電話しても通話中、正午に電話したら定員がオーバーしたという回答が毎年続いているようだ。過年度からの実績によって申込者が非常に多い業務については、平等を期すために、先着順ではなく、抽選などに是正してもらいたい。	市長	シルバー人材センターは国の事業。市は補助金を出しているだけだが意見は述べることができる。伝えておきます。	シルバー人材センターに連絡し問い合わせた。「今までは剪定作業をする会員が少ないので申し込みに対応できていないことがあった。会員を募集する広報、作業員の研修会をして剪定できる人を増やした。受付時の方法などについては内部で協議したい」とのこと。(担当:健康づくり課)
5	吉備線のLRT化は行政も推進していると思う。ただ、広報紙(平成27年2月号)に書いてあった定員では搬送不良がでてくるのではないかな。行政がやる部分はほとんど決まっているが、目学耳学という言葉があるので市長を含めて委員は一度朝の通勤時間帯、それから夜の通勤時間帯に乗り、今の現状を把握していただきたい。よく把握をして利便性を損なわないように検討をお願いしたい。	市長 市民環境部長	乗ってみて感じてみたい。 乗ってみたい。広報紙に記載の1時間当たり4便というのは、乗車人員をJRが調べ、これだけあれば対応できるという一つのたたき台の案。これですべて決まったわけではないので意見を聞かせていただくなかで、しっかり乗ってみて対応を決めていきたい。	ご意見をいただき、朝夕のピーク時に乗車した。特に朝の上り線総社発7:08の4両編成では、東総社駅で座席は満席。一宮駅からは、立ち客で満杯状況でした。今後の検討課題としていきます。(担当:人権まちづくり課)

◆ 平成26年度「第3回市政モニター会議」意見・提案集約 ◆

整理番号	発言趣旨	答弁者	答弁概要	対応状況
6	市政モニター制度は各地区の代表者が出席しており評価ができる制度だが、同年輩の人がモニターをしており、市政はもっとたくさんの方が関心をもっている。倉敷市は市民モニター制度を設けており、費用弁償はない。インターネットで市の方針に対して意見が言えるような制度。事務局の業務が増えるかもわからないが、検討していただけないか。	市長	若い人の意見を聞く機会がない。有識者会議をやると、何をやるにも同じメンバーになる。例えば10周年記念式典の作り方もまさしくそういう人ばかりになった。10周年記念式典は、総社高校、総社南高校、総社中学校、西中学校・東中学校・昭和中学校から代表者を集め、子どもの実行委員会を結成した。そうしたら子どもの意見が結構いい。子どもの意見をもって大人の会議に出したら大人が反対したりする。柔軟性をもっていかなければいけない。検討していこうと思う。	市民モニターを選定し、意見をいただくことはしていないが、市役所正面玄関に意見箱を設けたり、市ホームページに問い合わせフォームを設け、どなたでも随時ご意見を寄せることができるシステムを構築している。現時点では、市民モニター制度は考えていない。(担当:企画課)
7	国の調査では子どもの貧困率は16%とあるが、市長の説明の取り組み事業のなかで生活貧困者の自立支援という項目があった。ハードの面ではなく、ソフトの面でどのように考えているのか。	市長	生活困窮者の支援をこれからの市のテーマだと思いやろうとしている。今、生活保護者が360世帯で、母子家庭がそのうち60から70世帯ある。私たちが思っているのは、母子家庭・父子家庭の生活困窮者で中学生がいる世帯、この中学生を中学校卒業にとどめず、高校まではいかせるといふことに勢力をかけていきたい。現在、岡山大学の学生に勉強を教えてもらっている。お金がないから教育で阻害されていくということをさせないことに予算をとる考えた。子どもの育ちのなかで資金面でハンディを負わせないようにやっていこうと思っている。	-
8	ハザードマップを各地区に配布していると思う。先日ある会議で、モニター会議があるので質問があるかと尋ねると、日羽地区の人が、避難場所が私のところはないと言った。どこへ避難したらよいか、避難場所を設定するのか、すぐに費用でできることはないと思うが、避難場所に対する考えを聞きたい。	総務部長 市長	さまざまな会議で避難場所の問題がでる。できるだけ水で道が通行不能になる前に避難してほしいということと呼びかけている。避難場所については地元防災組織などと話をさせていただき、どこがいいかということを決めていきたい。地元の人のほうが地域の状況をよくご存知。「そこは危ないからこっちのほうがいいんじゃないか」といった話もよく聞かせていただく。そういうこともあるので地元とよく相談しながら今後決めていきたい。 日羽のお寺が土石流でやられたときに現地へ行き、現場監督をした。お寺が被害に遭った時点で避難勧告を出した。その時の現場の判断で山際の避難所ではなく、(消防団の)大月団長宅のやや北側にある公会堂に避難させた。もう一方で、吉備中央町に行く道の團場に小屋がある。そこにもう1か所つくって避難させた。ただ、あれだけ土石流が流れ出て大変なことになっているにも関わらず、避難勧告に従わない人がほとんど。避難してくれない。ここを意識改革していくということが大事。あのときは要介護者が2人いた。担いでさくばらホームまで2人を搬送した。にも関わらず逃げない人が結構いる。災害が少ない市なので、いざというときに避難してくれない人、ここを考えていかなければならない。	2月19日、日羽自主防災組織代表の植田さんが来庁。市政モニター会議で日羽地区避難所の問題が出たことを伝えた。日羽地区の公民館尾裏山の整備を要求されたが、その場で即答はできないため、関係課に伝言する旨を伝えた。(担当:総務課)

◆ 平成26年度「第3回市政モニター会議」意見・提案集約 ◆

整理番号	発言趣旨	答弁者	答弁概要	対応状況
9	「飼い犬等のふん害の防止に関する条例」が定められている。これの追跡調査、評価はしているのか。以前、観光バスに乗っていて、客を降ろすために運転手がトランクを開けたら、その時に犬の現物があり、踏んでしまうということが起きた。このようなことが総社の恥になる。マナー特区とかペットに税金を掛けるとか、何か方法を見出せないか。	市民環境部長 市長 環境課環境係長	犬のふんについての条例を作らせていただいた。この条例があることにより、注意がしやすいといったことはある。飼い主が自主的にやっていかなければならないということがある。PRIはしっかりやっていきたい。 調査している。例えば、一成や中央二丁目はマナーの悪い飼い主が多い。だから、市と町内会とで犬のふんお断りという札を一成公園からずっと通りにつけていった。 犬のふんの苦情については、窓口に来てくださったら必要な枚数だけ看板もしくは、レッドカードを配布する。レッドカードとは、犬がふんをする地点に「だめよ」と書かれた赤色のカードを置くもの。地元も見ているということで、ふんも減ってくるという作戦を総社市内全域でやっている。町内会でも個人でも相談していただければお渡しする。	
10	総社市の機構だが、危機管理室とか危機管理課がない。市長が現場へ行き、指示をするのもいいが、災害本部が立ち上がったときには市長はそこにいないといけない。危機管理室とか危機管理課を設けて、市長の直轄の部署にしたほうがいいのではないか。	市長	危機管理室を4月1日から設置する。危機管理本部を立ち上げたら私が本部長になる。私が現場に行くということを是とするか非とするか2通りある。日羽の水位計が10メートル32センチを超えると作原がオーバーフローする。今は改修したが、草田が寸断される。市のグラウンドは全部浸かる。堤防が決壊する可能性も出てくるということ、首長が見たことがないのでは本部長は務まらない。高梁川の周辺に災害が起こるわけだが、その時点で死者が出ていないことを前提に極力全部見るということをやり、現場で指示を出している。ただ、死者がでたら市役所を絶対に出ない。極力出て行く、しかし、大激甚になったら本部へ帰るということを決めごととし、実際は副市長に任せて私は外に出るという危機管理体制をやっている。	-
11	災害が起きるとライフラインが問題になる。広島のと砂災害でも後に電気・水道の復旧が遅いということで問題になった。市の水道の状況で感じるのは、水道事業の場合は水道事業管理者に市長がなっており、水道技術管理者は課長補佐か主幹の人がなっていること。水道事業は水道技術管理者が全責任を負っている、異常時には給水を停止する。もし失敗すると、水道法で罰せられる。そのあたりを考慮すると、ある程度責任を負えるような部長クラスが管理者を兼ねるほうが危機管理体制としてもいいのではないか。	水道部長 市長	水道の技術管理者は総社市でも1名おり、課長補佐級の職員が就いている。部長にということだが、資格がいること。責任はあくまで水道事業管理者である市長なので、技術管理者が部長級にいないといけないという問題はない。 よく分かる。これは水道技術管理者ばかりではなく、全市的に言えること。人を育てることは大事。それは心掛けていく。	-
12	市の職員の給与項目のなかで皆勤手当というものがある。現在の世間風潮から言うとおかしいのではないかと提言したら、市の独自ではできないという回答があった。費目を削除すると提言したのではない。今どき給与項目に皆勤手当というのはいかがなものか。	総務部長	勤労手当のことだと思うが、これは条例等で決まっているので名前を変えるということは難しい。勤労手当については勤務状況などにより毎回変わる。全国的にそのようになっている。	-

◆ 平成26年度「第3回市政モニター会議」意見・提案集約 ◆

整理番号	発言趣旨	答弁者	答弁概要	対応状況
13	市のホームページについてだが、ほとんど最新のことが記載してある。市の統計のなかで人口推移だとか、一部については最新が載っていないのが現状。毎年更新というのは非常に難しいと思うが、そういった各項目についても担当部局は忙しいとは思いますが、細やかに目を通していただきたい。	企画課長	統計関係のことであったが、情報については細かに最新の情報を載せていきたい。	聞き取りをしたところ、平成22年の国勢調査のことであった。国勢調査は5年に1度の調査であり、平成22年の調査分が最新の情報となる。人口などの推計については毎月市ホームページで最新の情報を公開していることをお伝えした。(担当:企画課)
14	(高梁川以西から)総社大橋を渡り終えて、自転車で通勤通学する人が下をくぐって通るところ、表からは見えないが、頻繁にごみが捨ててある。どんどん増えていき、すごく危ない。市民のモラルの問題だが、きれいなまちにしておきたい。	政策監 市長	おっしゃるとおり。危険性があれば警察にも相談をしたい。レッドカードではないが、啓発看板などがないのであれば、つけさせていただきたい。 今日見に行かせる。どういう手立てをとるかを今日中に電話する。	現場を確認しゴミを回収した。道路管理者である岡山県(備中県民局)に地域応援課から対応を依頼済み。市としても巡回して、ゴミを回収する旨をお伝えした。(担当:環境課)
15	市の情報はなかなか耳にすることが少ない。先日、保健師、栄養士、子育て真っ最中の親御さんが集まる役員会があった。虐待やいじめの状況について保健師に尋ねたら、結構あるとの回答を得た。乳幼児や児童、高齢者、それぞれの相談窓口は設けてあるように聞いたが、学校の問題、乳幼児の問題、高齢者の虐待などはどのような状況なのか。今の市の状況をお尋ねしたい。	教育次長 市長	学校のいじめ等の問題については、「誰もが行きたくなる学校づくり」という活動を進めている。これは、高学年の生徒が低学年の生徒の面倒を見るとか、共同学習ということで、授業のなかで何分間かは子ども同士で話し合う機会を設けている。また、子どもの社会性と協同性の学習ということで、お互いのコミュニケーション能力を高めていく授業やあいさつであるとか、自分がかけた言葉がどのように相手に伝わるかを教える品格教育、そのような授業をすることで、日ごろから学校のなかで生徒同士がコミュニケーションの能力を高め、いじめや不登校が起きないようにしていこうという取り組みをここ数年続けていて、成果も上がってきている。これを幼稚園でも進めていこうと考えている。 平成26年の、去年1年間のデータを申し上げます。警察沙汰になったDVが市内で33件。ストーカーが6件。恋愛トラブル25件。行方不明者が44人。さきほど教育次長が答弁した虐待が6件。これは警察届出案件なので、おそらくものすごく多い。それを減らすべく努力をしているが、この部分の根絶を教育委員会が腹をくくってやっつけていかなければいけない。子どもの犯罪、刑法犯、少年というのは中2から20歳までを少年と称するが、凶悪犯罪が去年12件起こっている。	-
16	学校の木を剪定するのに、校長は金がなくて困っている。学校は市の財産。校長の肩の荷を降ろす方法を考えて。	市長	昨年から学校校長一括交付金というものを既に実施している。これまで校長は、備品一つ買う、剪定を業者に頼むなどを全て教育委員会にお伺いを立てて判断を仰いでいた。平成26年度からは、学校別に校長の判断で使えるお金も持っている。	-